



自己紹介



MAIN POINTS



自己紹介



働くわたしの思い



これから医療は
どこに向かっていく？

鈴木 真紀

匹見町出身
総合診療科

医師9年目 総合診療科
大学院3年生

3歳、1歳 子育て中
趣味：写真・旅行





出身大学 自治医科大学

「医療の谷間に灯をともし」

栃木県

47都道府県から入学
9年間の地域義務 / 学費免除

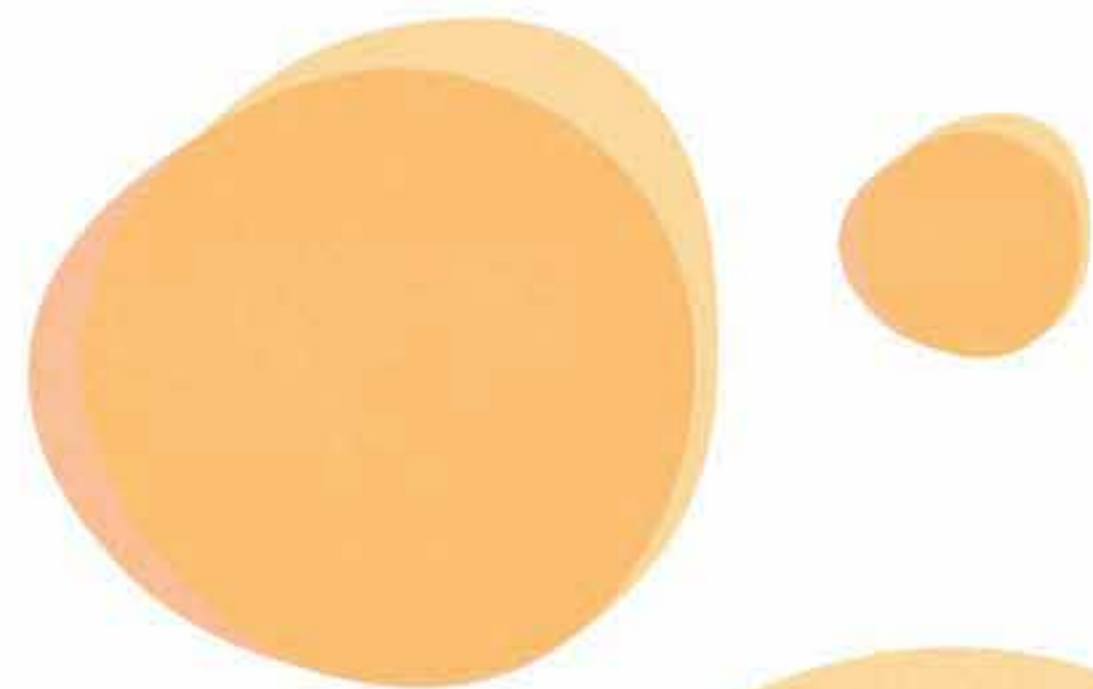
総合医を育てる



医療の谷間に 火を灯してきた 9年間でした



働くわたしの思い



わたしの医師としての原点？

大学2年生 祖父を、癌で亡くしました

「じいちゃんは、死ぬんじゃ」

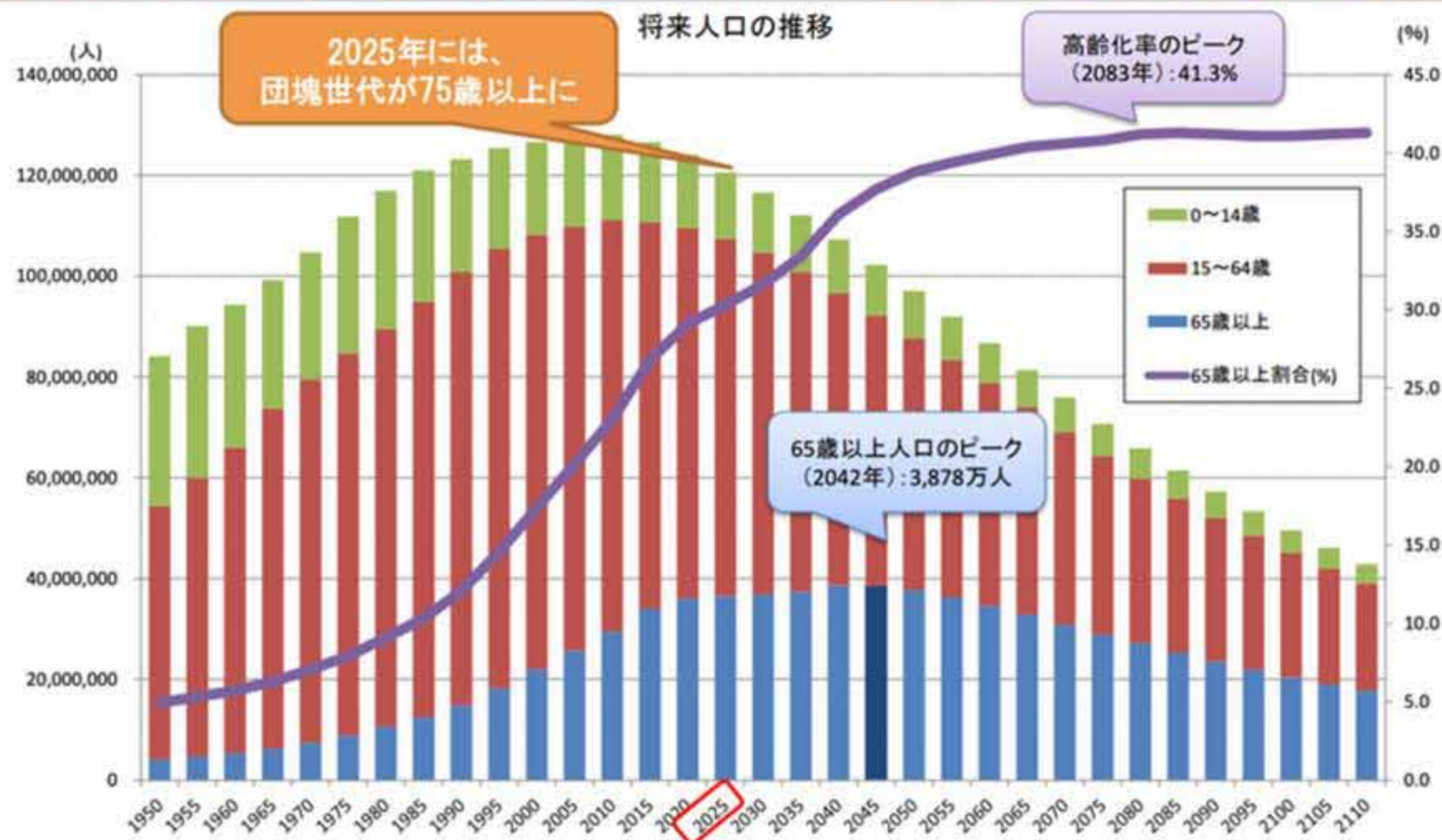
死と向き合うことの難しさ

- ・ 本人も迷い、苦しむ
- ・ 家族も苦しむ
- ・ 医療者としても迷う

でも、誰にも平等に訪れるもの

少子高齢“多死”社会の到来

○ 日本の人口は人口減少局面を迎えており、2060年に総人口は9,000万人を割り込み、高齢化率は40%近くになる。



各年10月1日現在人口、平成22(2010)年までは、総務省統計局『平成22年国勢調査による基準人口』(国籍・年齢「不詳人口」をあん分補正した人口)による、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)出生中位(死亡中位)推計」を基に日本看護協会にて作成

2

H29 厚生労働省

年間の死亡者数は、2040年をピークに減らない

誰にも必ず訪れる死 だけど特別な、死というもの

自分の家族も必ず



迎える多死社会
誰が、苦しみをとってくれる？
向き合ってくれる？

だからこそ

人生の旅路に寄り添うような医師でありたい

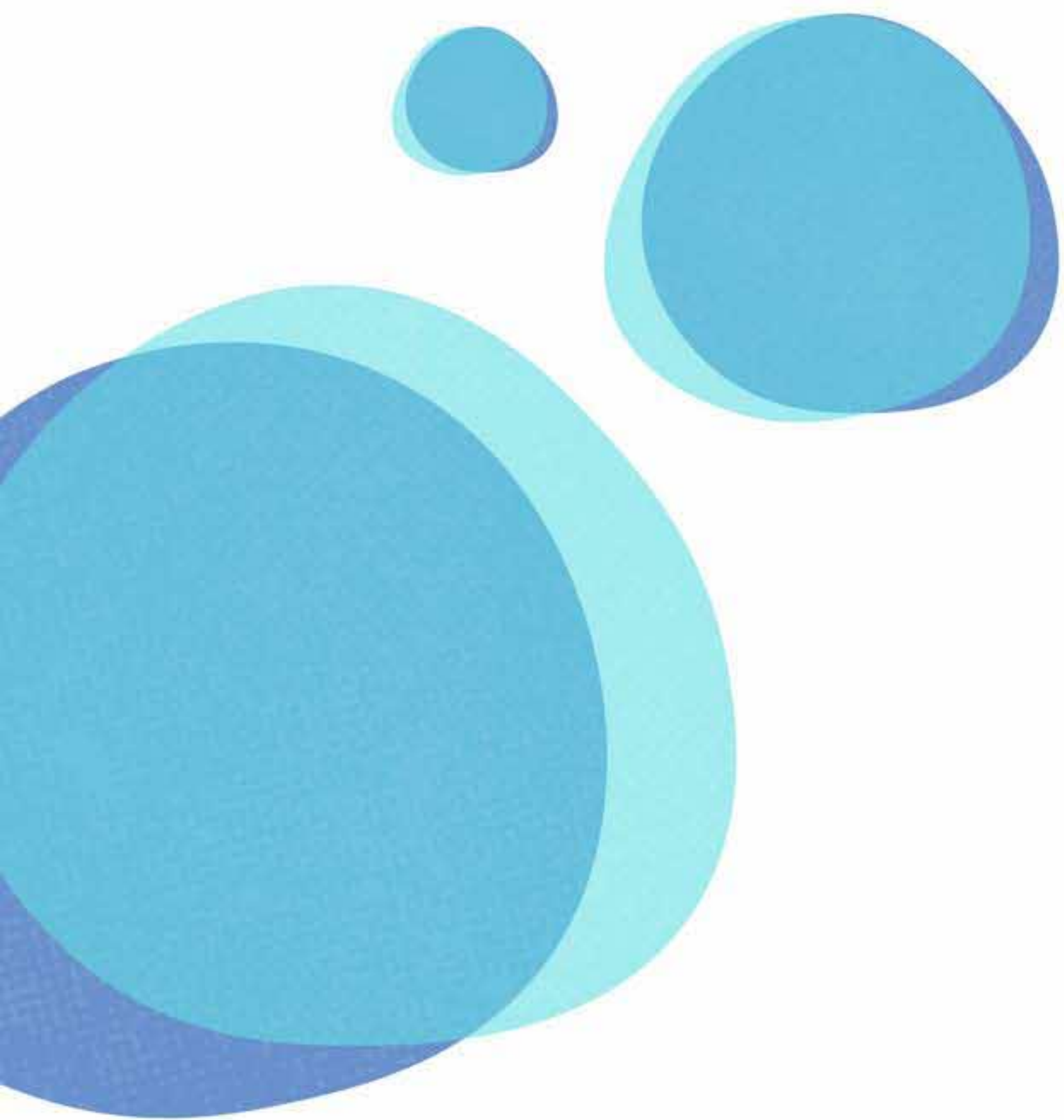
私は、

総合診療医として、 高齢者医療に従事する

高齢者の医療は複雑

- 医学的な最善 ≠ 最善
- 命の長さを1秒でも伸ばす ≠ 最善
- ケアとの兼ね合い
- 人生の質の向上

ガイドラインのない、我々しかできない専門性
「人生に寄り添う医療がしたい」 想いを叶える医療



医療はどこに
むかっていく？

Iron Triangle (鉄の三角形)



**“Cost, Access, Quality
--- Pick Any Two”**

Oregon Health Plan Administration Office

以下の3つをすべて満たすことはできないよ。
頑張っても2つまで。

- ①安い医療 (Low Cost)
- ②質の高い医療 (High Quality)
- ③いつでも利用できる (Easy Access)

Healthcare Iron Triangle
出典: William Kissick "Medicine's Dilemmas: Infinite Needs Versus Finite Resources" 1994

医療制度の評価軸、質・アクセス・コスト
の3つは、相反関係にある

今後益田が向かう医療

医療制度のIron Triangle

「公共財」である医療制度を評価するうえで3つの評価軸があり、トレードオフの関係性がなりたつ

Iron Triangle (鉄の三角形)



**“Cost, Access, Quality
--- Pick Any Two”**

Oregon Health Plan Administration Office

以下の3つをすべて満たすことはできないよ。
頑張っても2つまで。

- ①安い医療 (Low Cost)
- ②質の高い医療 (High Quality)
- ③いつでも利用できる (Easy Access)

益田地域

- ・ 少子高齢化→コスト ↑
- ・ 医療従事者減少→コスト ↑
質 ↓
- ・ 人口減少→アクセス ↓

同じ医療を続けることすら難しい

**最も危ないのは
コストをかけても、医療従事者が来ないこと**

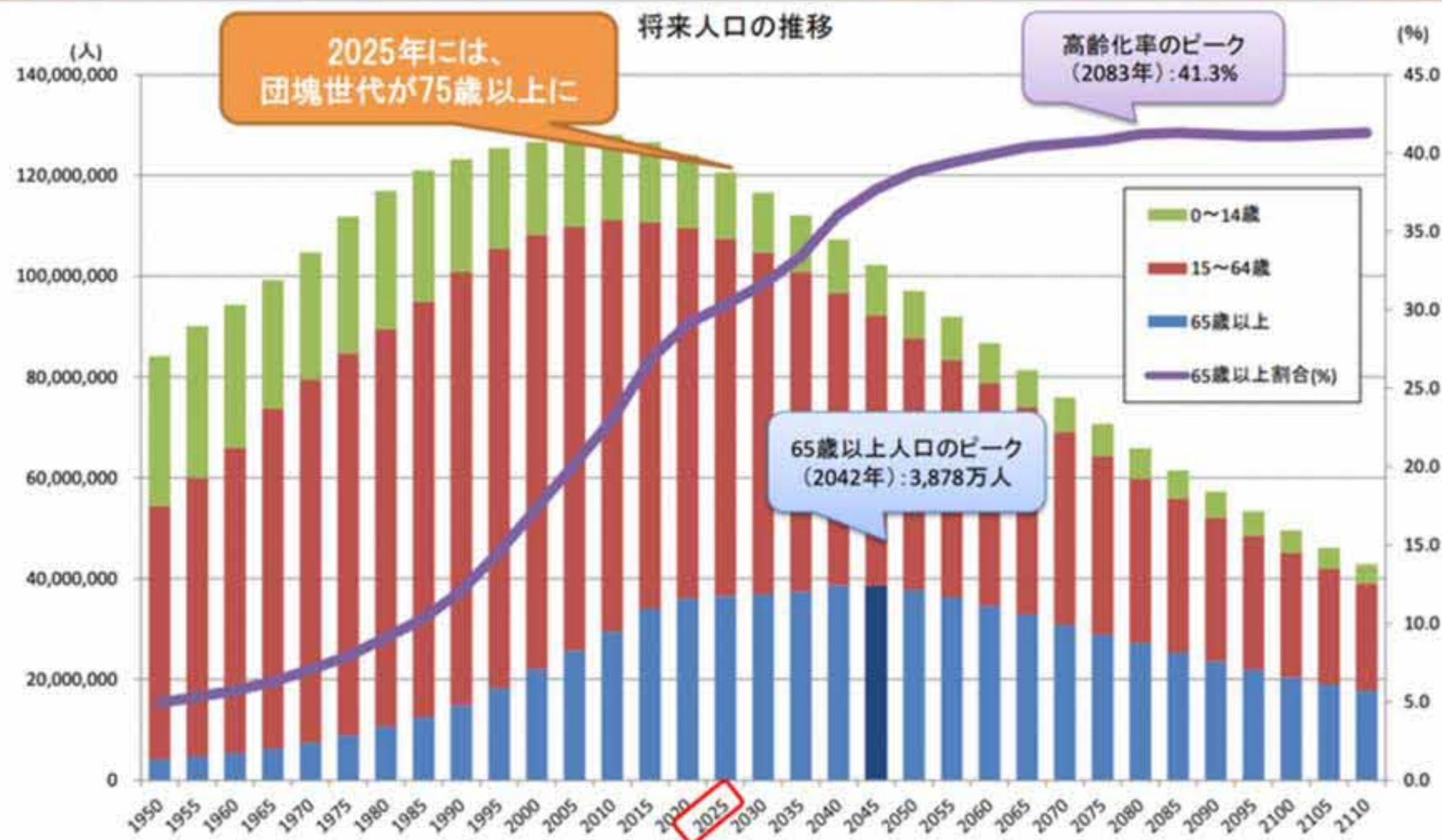
看護師不足が、迫っている

若い女性が減っている

日勤、夜勤、日常のケアをしてくれる
看護師がいないと医療は成り立たない

少子高齢“多死”社会の到来

○ 日本の人口は人口減少局面を迎えており、2060年に総人口は9,000万人を割り込み、高齢化率は40%近くになる。



各年10月1日現在人口、平成22(2010)年までは、総務省統計局『平成22年国勢調査による基準人口』(国籍・年齢「不詳人口」をあん分補正した人口)による、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)出生中位(死亡中位)推計」を基に日本看護協会にて作成

年間の死亡者数は、2040年をピークに減らない

私たちにできることは何か？



当事者として考え続けなければならない